

鎌ヶ谷市生涯学習審議会 令和2年度第1回会議 会議録

◎ 開催日時 令和2年12月18日(金) 9時30分～11時00分

◎ 会場 鎌ヶ谷市役所 本庁舎6階 第1・第2委員会室

◎ 出席委員 12名

篠田繁会長、伊藤眞由美副会長、有川かおり委員、石田友和委員、清松檜男委員、小林久子委員、佐藤克己委員、末永奈穂子委員、中野洪委員、萩原啓二委員、細井和美委員、御代川泰久委員

◎ 欠席委員 2名

菅井浩樹委員、森本聡委員

・鎌ヶ谷市生涯学習審議会の委員定数14名に対し、出席委員12名であり会議は成立した。

◎ 事務局 9名

岩松生涯学習推進課長、松本生涯学習推進課主幹、渡邊生涯学習推進課主幹、小池生涯学習推進課副主幹、渡邊生涯学習推進課生涯学習推進係長、伊藤文化・スポーツ課課長補佐、後野文化・スポーツ課副主幹、田中生涯学習推進課企画調整係主査、桑原生涯学習推進課企画調整係主査補

◎ 傍聴者 0名

1 開会

2 会長あいさつ

3 会議録署名人の選出

会議録署名人については、清松委員、小林委員に決定した。

4 協議事項

① 令和3年度社会教育関係団体に対する補助金交付について
～事務局から資料に基づき説明～

【意見及び質疑応答】

会 長： 資料について、去年は各団体2～3行程度の説明であったが、今年度は、丁寧に会員数や事業が何なのか、ということに記載いただいている。これ

について質問、意見はあるか。金額については例年だいたい同じである。予算が限られた中、それぞれに交付していくということだと思う。

委員： 前回の会議で、社会教育団体補助金について報告の際、認定基準があるかという話をしたときに、内々のものがあるとのことだったが、インターネットでみると市によって補助金交付要綱が明らかになっている。要望と交付の報告について協議をしているが補助金の流れがわからない。たとえば要望にあたって団体からヒアリングをして、このようなことで交付決定し、いつ団体に交付をし、それをどのように使ったかの報告を受けているというような、どのような流れでやっているのかをしっかりと話していただかないと、一部分だけではよくわからない。公正性とか透明性、お金が公益的に使われているのかがよくわかるように説明があったほうがよいのではないか。

会長： 交付の流れの説明をお願いしたい。

事務局： まず、交付する前年度、団体から要望をあげていただくときに、次年度の活動計画や決算報告を出していただいている。補助金交付に関しては、鎌ヶ谷市補助金交付要綱と適合しているかどうかを確認したうえで交付を行っている。

会長： 要綱に基づいて適正に処理しているということで、来期会議の際に補助金の流れを皆さんに了解していただけるような資料を添付していただきたい。

委員： 令和2年度の交付額の進行状況を知りたい。例えば子ども会だと648,000円ですが、12月末現在どのくらい消化されているか知りたい。

委員： 私は、子ども会から伺っている。12月現在、本部の方に残っているお金が大体12～13万円ぐらいだと把握している。年度によって色々変わるが、今年度はコロナの関係でなかなか活動を思うようにできないため、今後、総会に向けて使っていくという流れになる。

委員： 私は、合唱連盟に関わっていたことがある。それぞれの団体がどこで補助金を一番使うかは団体によって違ってくる。市に対しての報告は3月の総会で全て取り上げてから提出するものなので、市の方でも今いくら使っているかというのは、報告はあがってないと思う。それは会の運営上、仕方ないことで、最終的には決算の報告の時にこれはどういうものなのかというのをしっかりと問答しているので、その辺は大丈夫だと思う。補助金というのは、その会で使った費用の3分の1とか決まりはあったと思うので、その辺りでむやみに出しているわけではなくて、全体の何パーセントかを補助してもらってる形である。

会長： この件については、ご了承いただいたということで、よろしく願います。

続きまして、協議事項② 第4次鎌ヶ谷市生涯学習推進基本計画について、市長から諮問をいただいているので、事務局から説明をお願いします。

② 第4次鎌ヶ谷市生涯学習推進基本計画（案）の諮問

事務局： ～第4次鎌ヶ谷市生涯学習推進基本計画（案）について説明～

会 長： これまでの皆様からの貴重なご意見を反映しながら手直しをして、本日の基本計画（案）が出来上がった。それを踏まえて本日、ご意見をいただきたい。

委 員： 今頃の意見で申し訳ないが、生涯学習成果をどう活用しているかについて25ページにあるが、「学習成果を活かしている」市民の割合が49.8パーセント、「活かしたいけど活かせてない」が34.5パーセントで、活用していきたい人がまだ3分の1も残っているということである。課題に「活動の場をつなぐコーディネート機能の充実を図り、学びと活動の循環を推進していく」と書いてあるが、実際にこれをどうやって具体的に展開していくのかというのがはっきりしない。次のページの【1 学びの成果を発表・発信し地域の活性化につなげる取組みの推進】として4つの取組が出ているが、学校の児童生徒と一緒に生涯学習で勉強したことを活用していく場があったほうが良いのではないかと。【2 学びの成果を地域活動につなげる取組みの推進】を見ると、「地域学校協働本部事業」、「かまがや地域づくりコーディネーター育成・活動支援事業」があるが、実際にこれが動いているのか。我々がこれらを動かすためのカリキュラムのようなものを設定し、その中で学校と一緒に人をピックアップしていく。今、学校の問題は地域コミュニティと学校の社会教育が上手くつながっていないことである。福祉教育は単発的にやっていると思うが、それ以外の一般の活動は地域の人たちは、学校の先生よりも知識をたくさん持っている方がいっぱいいる。そういう人たちをもっと活用していく場を作っていく必要があるかと思う。もう一つ項目を付けて、カリキュラムを組んで、協働で地域の学校と連携して活動の発表の場、披露の場、児童生徒に教えていく場を用意するという動きが必要だと思う。

会 長： たとえば学校とのつながりでいえば、高校の器楽部が鎌ヶ谷駅前演奏会をしたり、書道部が小学生に教えたりなど、そういう意味では学校と地域のつながりは結構ある。学校と地域のつながりが大切というのは貴重な意見でそのとおりだと思うが、施策の柱(3)の課題で、「市民団体や企業、学校など様々な主体との連携・協力による活躍の場を拡充していく必要があります。」と明記してあるので、その中でご理解いただければどうかと思う。

委 員： 【2】の事業の中に散発的にあり、ピックアップすればたくさん出てくるが、市が運営する主な事業として【1】の中に一項目入った方がよいの

ではと思った。単発でやってるということが、まとまってこない。一つの動きとして事業の中で色々な団体のエキスパートを指名してやっていくということがあってもよいのではないかと思う。

委員： 今、審議しているのは基本計画についてということで、確かにそのとおりだと思うが、今後、各年度の計画の中でもう少し深く掘り下げていくと思うので、そちらの方で個別のところは考えていかれた方がよいのではないか。

委員： 基本計画の中に入れていただきたいと思った。よくよく見るとあちこちに散発的に出ている事が問題であり、一つの動きとしてまとまらないのかということである。

事務局： ご意見は、いろいろなところで学校と関係は持っているが、どこか1か所を取りまとめをすることで広げられないかということだと思う。生涯学習計画は教育部門に限らず、各部署で行っている様々な事業を総合的に推進するという理念の計画であるので、具体的な取組については、今後、地域学校協働本部や市民活動推進課で行っている地域づくりコーディネーター等と連携しながら取り組んでいきたい。学校との連携については公民館や青少年係、学校施設開放事業で地域の皆様に指導者になっていただいて子どもたちに体験活動を提供するなど、いろいろな形で地域の皆様の力を借りて取り組んでいる。計画案では学校との取組を載せることにとどめて、横のつながりについては、各年の事業を進めていく中で、より連携して取り組んでいきたいと考えている。

会長： 地域づくりコーディネーター講座が開かれて多くの方が受講されている。いろいろな能力を持った方が鎌ヶ谷市にはたくさん居るので、そういった人たちの人材バンクのようなものがあれば、そこに申し込むと有能な人材が派遣されるシステムが出来れば、円滑に事業ができるということだと思う。

今回、基本計画（案）に大前提の項目が示されて、後ろの方に細かく見やすいように事業名があって、どんな活動をしているのかが一覧表になっている。こんなにもいろいろなところが活動しているということの集約となっていて、見ればわかるようになっていると思う。

委員： 次期計画への宿題とする。

事務局： 人材バンクの話については、14ページに【2 学習環境の充実・向上】の項目に、人材バンク事業を入れている。各分野の講師・指導者の情報登録・管理及び情報提供ということで、学校にもご要望があればお問い合わせくださいという情報提供もしている。

委員： 10ページの「生涯学習推進目標」について、たたき台原案では、「豊かな心と生きがいを実感できるまち」とあって、この目標は議会で決まった鎌ヶ谷市基本構想の基本目標からきているという説明であった。また2月

の審議会の際に、ある委員もとても良い目標だということを発言されていたのに、最終段階にきて、第3次計画と同じになったのは、よくわからないので変更理由を教えてください。

事務局： 市の基本構想での生涯学習の目標が「豊かな心と生きがいを実感できるまち」と決まり、生涯学習推進基本計画も同じ方が良いのではないかとということで、当初はこの目標であった。しかし、市の会議の中で、生涯学習と青少年施策も併せて入る計画であることから、広い意味で考えてもよいのではないかという意見があり、検討した結果、第3次と同じ、「さわやかにふれあい、学びあい、高めあうまち」は、基本理念の「自他共栄による人・まちづくり」に合致し、鎌ヶ谷市のコンセプトの「育つまち鎌ヶ谷」にもつながるので、第3次の目標を継承する判断となった。

会 長： 青少年の育成に関しては、市の基本構想では教育のほうの政策に入っており、生涯学習の政策には入っていないが、生涯学習の計画では、これまでも青少年の健全育成の施策を入れており、それを踏まえての目標であるということでご理解いただきたい。

委 員： 理念についての話は分かるが、計画があれば当然予算がある。予算の概略の話の話を聞いていないと、理念だけでは市の進むべきところがわからなくてピンとこない。前回の計画ではこのくらいの予算がかかった、今後6年間の計画はこのくらいの予算でという裏付けが出ていれば、理念の中に具体性がある話ができるが、その辺はどうなのか。

会 長： 予算の観点を入れてもらいたいという要望でいいか。

委 員： 会議の中で予算の話が出来ればもっと具体的な提案ができるのではないかとということである。

事務局： 市の財政については、8月に市の財政当局から中期財政見通しが出され、少子高齢化に伴う社会保障費や扶助費、介護保険や後期高齢者医療の繰出金が増加しており、また、学童保育の整備、学校トイレの洋式化、東部地区児童センターの整備等子育て支援の強化を進めている。一方、コロナの影響で税収が大幅に減少することが予想され、今後は単年度単位でかなりの削減が必要との見通しである。そういう状況で生涯学習は優先度がどうしても低くなりがちな分野であるが、まちづくりに必要な市民の活力になるのが生涯学習であると理解している。今、財政当局で総合基本計画での予算配分の調整が行われている。限られた予算の中で効果的に生涯学習を推進していかなくてはいけない厳しい状況であるが、これまでどおり市民の皆様の活力につながるような事業を各部署で展開していけるように生涯学習推進基本計画を全庁的に周知するとともに、必要に応じて多額の経費がかかるものについては、市の実施計画に上げて進めていきたいと考えている。

委 員： この計画が出来上がったあとの一般市民への広報の仕方を教えてください。

事務局： 計画策定後、冊子を作成する予定である。市ホームページに計画を掲載するとともに、公共施設に配布をするのでご覧下さいとの旨を掲載する。

委員： 市民が見やすい簡易版の作成を提案したい。

会長： リーフレットのようなものを要望ということでもいいか。
では、この計画（案）を承認することとしてよろしいか。

委員： （異議なし）

会長： この計画（案）を答申として後日市長に提出する。

答申については、会長・副会長に一任いただくということによろしいか。

委員： （異議なし）

5 報告事項

審議会等出席状況について ～担当委員から資料に基づき報告～

6 その他

～千葉県社会教育連絡協議会表彰について～

3名の審議会委員の表彰について事務局から報告

7 閉会

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違のないことを証するために次に署名する。

令和3年2月 2日

氏名 清松 檜男

氏名 小林 久子